



セレクションセールの様子



乳牛の搾乳の様子

| 農産部門 | | | | | |
|---------------------|----------|------|-------------|-------------|-------------|
| 品名 | 区分 | 単位 | 平成29年度 | 平成30年度 | 前年対比 |
| 水稲 | 収量 | kg | 411,570 | 431,130 | 19,560 |
| | 販売金額 | 円 | 99,754,800 | 109,180,050 | 9,425,250 |
| | 販売単価 | 円/kg | 242.4 | 253.2 | 10.8 |
| そ菜計 | 販売金額 | 円 | 828,341,613 | 971,753,959 | 143,412,346 |
| そ菜の内 ピーマン | 収量 | kg | 2,024,251 | 1,733,337 | △290,914 |
| | 販売金額 | 円 | 739,927,206 | 868,548,726 | 128,621,520 |
| | 販売単価 | 円/kg | 365.5 | 501.1 | 135.6 |
| 畜産部門 | | | | | |
| 品種別 | 区分 | 単位 | 平成29年度 | 平成30年度 | 前年対比 |
| サラブレッド | 売却頭数 | 頭 | 305 | 284 | △21 |
| | 売却額 | 千円 | 1,789,128 | 1,539,540 | △249,588 |
| | 1頭当平均売却額 | 千円 | 5,866 | 5,421 | △445 |
| | 売却率 | % | 77.2 | 68.1 | △9.1 |
| 品名 | 区分 | 単位 | 平成29年度 | 平成30年度 | 前年対比 |
| 生産乳量・乳代 | 乳量 | t | 9,480 | 9,977 | 497 |
| | 乳代 | 千円 | 859,085 | 916,613 | 57,528 |
| 肉用牛関係 (黒毛和牛・交雑種) | 売却頭数 | 頭 | 1,050 | 1,014 | △36 |
| | 売却額 | 千円 | 885,932 | 850,470 | △35,462 |
| 水産部門 | | | | | |
| 魚種 | 区分 | 単位 | 平成29年度 | 平成30年度 | 前年対比 |
| 秋さけ | 数量 | kg | 283,524 | 282,664 | △860 |
| | 金額 | 円 | 289,457,335 | 192,737,945 | △96,719,390 |
| | kg当単価 | 円/kg | 1,021 | 682 | △339 |
| たこ | 数量 | kg | 76,682 | 74,154 | △2,528 |
| | 金額 | 円 | 44,885,512 | 57,707,941 | 12,822,429 |
| | kg当単価 | 円/kg | 585 | 778 | 193 |
| こんぶ | 数量 | kg | 2,120 | 5,172 | 3,052 |
| | 金額 | 円 | 2,840,396 | 6,790,933 | 3,950,537 |
| | kg当単価 | 円/kg | 1,340 | 1,313 | △27 |

2 平成30年度一次産業の概況

議会

- 第4回定例会 -

12月11日に招集された第4回定例町議会は、12月14日、全日程を終えて閉会しました。今定例会では、鳴海町長の行政報告のほか、平成30年度の補正予算などが審議されました。町長と教育長の行政報告の概要についてお知らせします。



町長行政報告

1 J R日高線にかかる取組等
J R日高線の交通モードについて、「J R日高線全線復旧」、「鶴川・日高門別間の鉄道・プラス・バス」、「全線バス」の3案の絞り込みは、町長会議で8月以来7回に及び、J R北海道を始め北海道担当部局などの関係機関を交え、また、管内町長に限った中で、全線復旧の模索、海岸護岸対策、J R北海道から提案のあったバス転換に係る支援策の具体的な内容、鶴川・日高門別間の復旧や地域における交通体系のあり方などについて議論を交わしてきました。

会議では、J R北海道幹部に対し、地域の公共交通機関を担う鉄道事業者としての姿勢を強く質してきましたが、鶴川・様似間についてスタンスを崩すことなく、日高線の復旧や運行可能区間におけるJ R北海道の一切の歩み寄りが見られませんが、海岸護岸の恒久復旧や予防護岸については、現状のJ R北海道の財務状況では不可能としているところ、鉄道海岸と言ふ法的な問題から、恒久対策を行なうための国からの支援も見通せない状況です。

一方、北海道が本年3月に策定した北海道交通政策総合指針で

は、鶴川・様似間は他の交通機関を視野に検討・協議を進めることを示唆しており、鉄路復旧が記されていませんし、国土交通省が本年7月27日に公表した、J R北海道の経営改善に向けた取り組み及び関係者による支援・協力では、鶴川・様似間は事業範囲の見直し線区で支援対象となっていないとされています。合わせて、同日付でJ R北海道に対して、経営改善に向けた取り組みを発出されており、この地域に対し非常に厳しい選択を突きつけられているように感じざるを得ません。

日高線は、他の線区と違い不通になって早4年近かつ事実、J Rからの日高線存続にかかる管内への年13・4億円の負担要請には財政上応えられないとしており、このような日高線を取り巻く厳しい状況下もあり、これ以上、全線復旧について協議を重ねても進展が見られることはないのことから、J R日高線 鶴川・様似間の全線復旧は諦めざるを得ないと、町長会議で苦渋の判断をしたところです。

J R日高線が被災により不通となつて以来、オール日高として、早期に復旧されるよう、幾多の協議会、町長会議を重ねてきたとともに、国、北海道、J Rなどへの

要請活動を関係機関とも連携を図りながら取り組みを進めてきましたが、今般、地域住民の切なる願いであります、全線復旧という旗を降ろさざるを得なくなり、忸怩たる思いです。

今後、日高地域に一部でも鉄路と言うことで、被災の少ない鶴川から日高門別間の鉄路復旧がありますが、国から財政支援を受けられない線区ですし、日高門別までの復旧費はJ Rが負担して行われますが初期設備費の全額、年間維持経費に對し多くの財政負担を求められていることから、町長会議で協議・検討を進めて行き最終的な交通モードの結論は、J R日高線沿線自治体協議会で決定する運びとしています。

なお、護岸対策については、11月9日、新ひだか町で開催された管内7町長と高橋知事との意見交換において、知事から責任を持つて対応して行きたいとの発言もあることから、抜本的対策に向かうものと思っております。11月20日、21日の両日には、道が主体となつて海岸保全の観点から被災護岸の現地調査が行われ、恒久的な対策が行われていないこともあり、被害が拡大されているとの説明を受けており、今後も道との情報交換に努めていきます。

3 国保診療所の運営状況

国保診療所の入院病床及び休日夜間における救急外来患者受入れ同時再開後の運営状況につきましてご報告させていただきます。

入院病床につきましては、8月1日から11月30日までの間、新規入院患者延数53人、退院患者延数41人となっており、1日平均入院患者数は9・2名でございます。

なお、休日夜間における救急外来患者さんの受入れにつきましては、平日の時間外の急患対応者は延28名、休日は延49名、合計延77名となっております。

次に外来患者数でございますが、概ね昨年度と同様な患者数で推移しておりますが、患者数の増加に向けた対応策を引き続き検討、実践するとともに、外来収益の増加傾向を維持する努力を続けてまいります。

一方、町立診療所の役割である町民の健康づくりについても今後さらに関わりを強め、予防医療に力を入れたいと考えております。

また、健康診断受入者数をさらに増やす取組みや医師等による講演会についても、順次行うことも考えており、町民の健康への意識や関心を持って頂く機会も増やし



町民医療講演会の様子

てまいります。

今後も町民の皆様、地域の皆様に信頼される医療機関として発展できるよう、さらなる取り組みを進めていきたいと考えております。

4 福祉灯油支給事業の実施

福祉灯油支給事業は、灯油価格の高騰や高止まりにより日常生活への影響が極めて大きい高齢者世帯や障がい者世帯・ひとり親世帯等で低所得者の方を対象にした、単年度限りの暖房用灯油購入支援対策であります。

本事業実施の判断基準としましては、灯油価格が高騰し、町内灯油取扱業者における販売価格が100円を超えた場合を目安とし